

# ヒロシマ・ 音の記憶

Vol.2～繋がり～

2011.6.25 (土)

開演 / 14 時 (開場 13 時 30 分)

場所 / 広島市東区民文化センター 大ホール

主催

■「ヒロシマと音楽」委員会  
(特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 事務局内)  
Tel: (082) 502-6304  
E-mail: hiroshima\_ongaku@yahoo.co.jp  
ホームページ:  
<http://www006.upp.so-net.ne.jp/hirosima-ongaku/>

■財団法人広島市未来都市創造財団  
広島市文化振興基金助成事業  
■エネルギー文化・スポーツ財団助成事業

後援

■広島市 ■広島市教育委員会 ■広島市文化協会  
■広島芸術学会 ■中国新聞社 ■中国放送  
■広島テレビ放送 ■新広島テレビ  
■広島ホームテレビ ■広島エフエム放送

コンサート企画・構成

能登原 由美 (「ヒロシマと音楽」委員会)



## ご来場のみなさまへ

私たちは今、「音」の中に眠る広島<sup>おと</sup>の記憶に耳を澄まそうとしています。それは、昭和20年8月6日の灰燼に帰した土の奥底にまだ埋もれているはずの、戦前から続く広島<sup>おと</sup>の営みにも耳を傾けることとなります。そして、あの瞬間を境に一変した世界を生きた人々の、「音」にしかない言葉の山にも……。その中には、楽譜に書かれた作品ではなく「活動」であったために、記録には残らなかった音＝言葉たちも無数に含まれています。これらの「音＝言葉」にどれほどの痛みやためらいが付きまとっているのかは想像の域を出ませんが、その音に再び耳を傾けることができるのは、記憶のまだ残されている今を除いて二度とない。そうした思いから、今年のコンサートを企画しました。

今日の会場には、こうした広島<sup>おと</sup>の記憶を私たちに提供して下さった方々をお招きしています。一方、舞台の上では、これから無数の記憶を積み重ねていく若者たちの歌声が鳴り響きますが、しかしそれは、単に広島<sup>おと</sup>の記憶を跡づけるためではありません。若い彼ら自身の音と記憶に耳を澄ますこの瞬間こそ、新たな記憶が生み出される、記憶を介した人と人との新たな繋がりが生まれるのではないかと考えています。本日、みなさまと同じ「音の記憶」を共有できることに心から感謝いたします。

本日はご来場いただき、本当にありがとうございました。

2011年6月25日

「ヒロシマと音楽」委員会  
委員長 能登原由美

# プログラム

司会／内海雅子

パーカッション・アンサンブル

## 喜遊曲「胴鉢の詠」

(佐藤正二郎作曲)

打楽器アンサンブル／佐藤須美子、白石幸弘、山下やよい、金石あずさ、藤岡敬己、上原のぞみ

歌 曲

(野口雨情作詩、藤井清水作曲による歌曲)

- ・ 港の時雨
- ・ 河原柳
- ・ 信田の藪
- ・ スイッチョ
- ・ 佐渡が島

ソプラノ独唱／藤田真弓　ピアノ／溝辺恭子

----- 休憩(15分) -----

お話／インタビュー上映

## 「音楽で復興を！～被爆直後のある学生音楽集団の取り組み～」

出演／「広島学生音楽連盟」元メンバー：千葉佳子、原田雅弘

合同合唱

## 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

(大木惇夫作詩／佐藤眞作曲)

第1楽章 農夫と土

第3楽章 死の灰

第5楽章 天地の怒り

第7楽章 大地讃頌

合同合唱／崇徳高等学校グリークラブ、安田女子高等学校音楽部、広島女学院高等学校音楽部  
指揮／猪原龍吉　ピアノ／小林知世

# 学生音楽連盟について

被爆の翌年、広島の子供たちが集まり合同合唱団を結成した。参加したのは広島高等学校、広島女子専門学校、広島女学院専門学校、広島高等師範学校、広島高等工業学校、広島実践高等女学校の生徒たち。彼らは自らを「広島学生音楽連盟」と称し、戦時中には歌うことのできなかつたさまざまな音楽に手をのぼした。たとえば、「流浪の民」や「野ばら」などのドイツ歌曲は日常のレパートリーに、大きな行事になるとヴェルディやブラームスの「レクイエム」などにも挑戦した。

だがそれだけではない。彼らは市内に残ったほんの僅かな建物を使い、日本を代表する音楽家を次々と招いてコンサートを開催した。目的の一つは、学校の復興資金を集めるため、もう一つは、広島を音楽で元気にするため。たとえば次のようなコンサートを企画する。



- 第1回 四家文子独唱会・・・・・・・・・・昭和21年10月28日 広島鉄道局講堂
- 第2回 レオニード・クロイツァー ピアノリサイタル・昭和21年11月2日 実践高等女学校講堂
- 第3回 伊達トリオ演奏会・・・・・・・・・・昭和21年11月24日 広島高等学校講堂
- 第4回 山上雅唐ピアノリサイタル・・・・・・・・昭和21年12月15日 場所不明
- 第5回 豊増昇 ピアノリサイタル・・・・・・・・昭和22年1月18日 場所不明

【日時が不明のもの】

- 宮原淳子ピアノリサイタル 広島鉄道局講堂
- 柴田睦陸、長門美保による「蝶々夫人」(コンサート形式) 旭劇場
- 四家文子独唱会 広島高等学校講堂

焼けた市内を文字通り東奔西走する彼らの活動は、昭和25年3月、主要メンバーの揃う広島高等学校の廃校とともに幕を閉じた。



広島学生音楽連盟 章



イクナガ守場

## 喜遊曲「胴鉢の詠」(どうばちのうた) 佐藤正二郎作曲

この曲は、原爆犠牲者の御冥福を祈念して作られたものであります。「黒い雨の日のヒロシマ」など一連の鎮魂曲の中の一曲で、1971年6月15日に完成し「カネの饗宴」として9月に初演しました。このカネの名称は日本では決定的なものはありませんでしたが、丁度この年出版された『世界の打楽器とその歴史』という研究書(イギリス・オックスフォード大学のジェームス・ブレイード教授著)の中に、このカネの事を日本語で胴鉢と命名され紹介されていました。そこで著作権協会には「胴鉢の詠」として登録致しました。

外は大学紛争、内は静まる事のない家庭のきしみ、私は心の安らぎを求めて未だ雪の残る福井市郊外の永平寺に詣でました。寺は杉の巨木に囲まれ修行僧の読経とカネの響きが七堂伽藍にこだまし、まるで全山はカネの響きの宴のよう…私の作曲への衝動が触発され雅楽の律旋法なども取り入れた自由形式で作曲しましたが、カネの調達には大変苦勞致しました。

### 佐藤 正二郎プロフィール

新潟県田上町生まれ。陸軍戸山学校軍楽部に学ぶ。作曲を大沼哲氏に、打楽器を松倉五郎氏に、指揮法と楽曲分析を齊藤秀雄氏に師事。指揮者のパイプルとも言われている齊藤秀雄氏の「指揮法教程」の著作に協力。

戦後、東京フィルハーモニー交響楽団打楽器奏者として活躍、同楽団の運営委員長を経て広島大学教授、広島文化女子短期大学教授、広島交響楽団常任指揮者を歴任。また数回にわたり渡米、大学・高校等の全米選抜バンドの指揮をしている。

幻想的行進曲「フジヤマ」、「最新打楽器教本」、「ボクの洋楽回想記」をはじめ作曲・著書多数。広島大学名誉教授、広島文化短期大学名誉教授。日本吹奏楽指導者協会(JBA)終身名誉功労会員。NTT西日本中国吹奏楽クラブ名誉指揮者。



## 〈港の時雨〉、〈河原柳〉、〈信田の藪〉、〈スイッチョ〉、〈佐渡が島〉

### 野口雨情作詩／藤井清水作曲

呉市焼山出身の作曲家、藤井清水は、大正から昭和にかけて1800曲余りもの作品を残した。その大半は、歌曲や童謡、唱歌、歌劇などの声楽作品である。早くから芽生えた古い民謡への強い関心が、その創作様式に大きな影響を与えるとともに新たな民謡の創作さえ促した。詩人の野口雨情とは、浪曲の改良と研究、またその普及など、日本古来の音楽の「近代化と発展」を目指して活動をともにしている。とりわけ、野口の詩に藤井が曲をつけた歌曲や童謡、民謡は数も多く優れている。その中から本日は、大正時代後半に書かれた5つの作品を紹介する。

- 1 **港の時雨**  
蛇の目唐傘に時雨が降るに  
月日数えてエー港を見てる  
待つはつらからう  
待たるる身よりサァー  
伏木港のエー船頭さん達よ
- 2 **河原柳**  
南風吹け表の穂に  
河原柳の影法師 最早今年も  
沢瀉の花はちらほら咲きました
- 3 **信田の藪**  
お背戸のお背戸の赤とんぼ  
狐のおはなし聞かせましよう  
糸機7年織りました  
信田の狐は親ぎつね  
信田のお背戸のふるさどで  
こどもにこがれた親ぎつね  
お背戸のお背戸の赤とんぼ  
明日もお藪に来てとまれ
- 4 **スイッチョ**  
スイッチョスイッチョと  
大阪の街のはずれで鳴く  
スイッチョ  
姉は筑紫の長崎へ  
妹は筑紫の長崎へ  
スイッチョスイッチョと  
葛の葉の上にとまって鳴く  
スイッチョ
- 5 **佐渡が島**  
海に海鳥かもの島  
海の遠くはどここの国  
あれは越後の佐渡が島  
波々打つな波打つな  
佐渡は越後の離れ島



# 曲目解説 ～カンタータ「土の歌」

## 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

### 第1楽章〈農夫と土〉、第3楽章〈死の灰〉、第5楽章〈天地の怒り〉、第7楽章〈大地讃頌〉

#### 大木惇夫作詩／佐藤眞作曲

反戦平和を詠んだ合唱曲として現在まで広く歌われているこの作品は、広島市出身の詩人、大木惇夫のテキストによる。大木は、戦時中は〈戦友別盃の歌〉などで人気を博すが、戦後になるところした「戦争詩」が強い批判を浴び、中央の詩壇から遠ざかった。その戦後の苦難の時代に書かれたこのテキストに、昭和37年、当時はまだ東京芸大の院生だった佐藤眞が作曲。大木の死後、当時の様子を語った佐藤の言葉には大木の人柄が浮かんで見える。

(大木惇夫さんは)・・・いかにも詩人らしい人だった。この作品の打ち合わせの時も、いつも変わらぬボロシャツ姿でふらりとビクターに出掛けてこられたのがまぶたに浮かんでくる。そして自作の詩をわれわれに詠んで聞かせたり説明を加えたり・・・。クリスチャンである詩人が「おお神よ」などと朗読すると、不思議に新鮮な魅力ある響きとして言葉が生きてくるので驚いたものだ。

(『土の歌／佐藤眞作品集』ビクターエンタテインメント VZCC-12 CD解説より)

オリジナル版は管弦楽による伴奏だが、その後ピアノ伴奏版が作曲され、さらに男声による合唱版も作曲された。また作曲から半世紀近くの間改訂が重ねられており、本日は2009年に改訂されたものを上演する。

## 「土の歌」 大木惇夫 詩

※本日は第一、三、五、七楽章のみを演奏

### 第一楽章 農夫と土

耕して 種子を撒く土  
人みないのちの糧を  
創り出す土  
耕して種子を撒くもの  
農夫らの楽しみの子  
悲しみの種子  
ともかくも種子がいのちだ  
朝 星を見て 野良に出る  
働いて 額に汗して  
夕星を見て帰るのだ  
種子をはぐくむ土こそは  
種子をまく者の夢だ 望みだ  
そして祈りだ

花さき みのる 毎年の  
約束の不思議さよ

### 第二楽章 祖国の土

ああ 大地  
踏んでみて  
寝ころんでみて  
たしかな大地  
ああ まして祖国の  
土の尊さ  
  
大空の星を仰いで  
高く仰いで 歩け 歩け  
しかし 溝には はまるまい

山河よ  
さくらの 菊の  
花さく丘よ  
顔あげて  
堂々と 踏みしめて  
この土を 踏みしめて  
この土を 護ろうよ  
祖国の土を

### 第三楽章 死の灰

世界は絶えて滅ぶかと  
生きとし生けるもの皆の  
悲しみの極まるどころ  
死の灰の怖れはつづく

文明の不安よ  
科学の恥辱よ  
人知の愚かさよ

ヒロシマの また長崎の  
地の下に泣く  
いけにえの霊を偲べば  
日月は雲におおわれ  
心は冥府の路をさまよう

#### 第四楽章 もぐらもち

もぐら もぐら  
土にもぐって  
日のめも見ない  
もぐら もぐら  
それでもおまえは  
しあわせだとさ  
もぐら もぐら

地の下の  
穴の暮らしが  
やすらかだとさ  
もぐら もぐら

火の槍におびえる者は  
死の灰をおそれる者は  
もぐらの真似をするそう

なるほどな  
土から出て来て  
土にと帰る  
もぐら もぐら  
どのみち  
それが人間か  
わっはっは  
わっはっは  
もぐら もぐら  
笑ってやれよ  
人間を  
もぐら もぐら

#### 第五楽章 天地の怒り

雷だ  
いなづまだ  
嵐だ 雨だ  
洪水だ

土手が崩れる  
崖が砕ける  
橋が流れる  
樹も垣も  
根こそぎにされる  
濁流が  
家を呑む  
人をさらう

地の上に山脈があり 地の上に重みがある  
地の下に燃える火があり 地の下に怒りがある  
地の上に絶えずかぶさる人間悪よ  
地の上のなげきは深い 長い年月

火の山の  
爆発だ  
地震だ  
火事だ

熔岩が流れる  
尾根が崩れる  
落ちる  
なだれる  
火の海だ  
修羅の巻だ  
逃げまどう人の  
すさまじい叫び  
うめき  
のけぞる  
ころがる  
煙突が倒れる  
時計台が崩れる  
荒れ狂う町

#### 第六楽章 地上の祈り

美しい 山河を見て  
美しい 花を見て  
大地の意（こころ）を信じよう  
恩寵を  
自然に享けて感謝しよう

ああ  
戦争の  
狂気をば  
鎮めたまえ  
剣の乱れ  
爆弾の恐れを  
さけたまえ  
天意にそむく  
動乱を  
おさめたまえ  
ああ 戦争の  
狂気をば  
鎮めたまえ

地の上に花咲く限り  
よるこんで日ごと営み  
悲しみも耐えて生きよう  
ああ 栄光よ  
ああ 地の上に平和あれ

#### 第七楽章 大地讃頌

母なる大地のふところに  
われら人の子の喜びはある  
大地を愛せよ  
大地に生きる人の子ら  
その立つ土に感謝せよ  
平和な大地を  
静かな大地を  
大地をほめよ たたえよ土を  
恩寵のゆたかな大地  
われら人の子の  
大地をほめよ  
たたえよ 土を  
母なる大地を  
たたえよ ほめよ  
たたえよ 土を  
母なる大地を ああ  
たたえよ大地を ああ

# 出演者プロフィール

## 藤田 真弓・・ソプラノ・フジタ マユミ・・

広島市出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業後、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。その後、藤原歌劇団や日本オペラ協会を中心に数々の主演を務める。

NHK FMリサイタル、ソロ リサイタルなど多数。

現在は東京・横浜・広島を中心に演奏活動を行う。日本オペラ協会会員、日本演奏連盟会員、さくら会主宰。



## 溝辺 恭子・・ピアノ・ミゾベ ヤスコ・・

広島文化女子短期大学（現広島文化学園短期大学）音楽学科ピアノ専攻卒業。

同学専攻科、研究生終了。

ピアノを故管みどり、東孝彦、増本嘉子の諸氏に、伴奏法を吳恵珠氏に師事。広島文化学園大学、同短期大学、安佐准看護学院非常勤講師。



## 猪原 龍吉・・指揮・イノハラ リュウキチ・・

1964年、慶應義塾大学を卒業。在学中ワグネル・ソサエティー男声合唱団の学生指揮者を務め、木下保、畑中良輔両氏の薫陶を受ける。音楽史を皆川達夫、指揮法を若杉弘、クルト・トーマス、対位法・和声学を矢代秋雄、佐藤真、声楽を大久保昭夫の各氏に学ぶ。

1967年広島に声楽アンサンブル「コール・アルス・アンティカ」を、1980年には古楽器のアンサンブル「プロムジカ・アンティカ」を、1999年「広島ガンバコンソート」を結成し、ルネッサンス音楽の普及に努める一方、広島と関西を中心に主に室内合唱団の指揮に情熱を傾けている。



## 小林 知世・・ピアノ・コバヤシ トモヨ・・

エリザベト音楽大学大学院を主席にて修了。読売新人演奏会、広島市新人演奏会、日独交流演奏会（於ベルリン）など多数の演奏会に出演。日演連推薦新人演奏会にて広島交響楽団と共演。2010年広島にてリサイタルを開催。これまでにピアノを谷口博子、松村英臣、前田麻紀、高良芳枝、岡本えり、柴田美穂、J. ルヴィエ、G. サヴァの各氏に師事。作曲、対位法、即興演奏を平井正志氏に師事。現在、同大学院音楽研究科博士後期課程、ティーチング・アシスタント。



合同練習 / 2011.5.29 / 崇徳高等学校にて



# 出演者プロフィール

## 上原 のぞみ・・打楽器・ウエハラ ノゾミ・・

山口県立岩国商業高等学校卒業。現在広島文化学園大学学芸学部音楽学科打楽器専攻4年在学中。打楽器を山下やよい、佐藤須美子の各氏に、ラテンパーカッション及びドラムスを折田吉弘、折田新の各氏に師事。高校3年の時、岩国ソロ・アンサンブルコンテストにて金賞受賞。打楽器グループ「ツッカーズ」及び「HeartBeats」に所属。



## 金石 あずさ・・打楽器・カネイシ アズサ・・

広島文化短期大学卒業、同大学専攻科修了(現広島文化学園大学)中・四国新人演奏会、広島市新人演奏会、関東支部打楽器新人演奏会に出演。第7回日本クラシック音楽コンクール入選。マリンバ奏者の吉岡孝悦氏とデュオリサイタル開催。パーカッションアンサンブルパルス代表。打楽器を佐藤正二郎、佐藤須美子両氏に、ドラムを折田吉弘氏、ラテンパーカッションを水木恒夫氏に師事。現在、広島文化学園生涯学習センター音楽園講師。



## 佐藤 須美子・・打楽器・サトウ スミコ・・

広島大学教育学部音楽科卒業、同大学教育専攻科修了。打楽器・指揮法を佐藤正二郎氏に、ドラム・ラテンパーカッションを折田吉弘氏に師事。現在、広島文化学園大学学芸学部教授、広島大学非常勤講師。広島文化学園生涯学習センター音楽園園長、打楽器グループ「ツッカーズ」代表、西日本打楽器協会会員。



## 白石 幸弘・・打楽器・シライシ ユキヒロ・・

広島大学教育学部音楽科卒業。打楽器を佐藤正二郎氏に師事。広島交響楽団団員となり2007年定年退職。現在、広島交響楽団契約団員。広島県内を中心として、中学校、高等学校および社会人団体の打楽器・吹奏楽の指導等を行っている。西日本打楽器協会副理事長。



## 藤岡 敬己・・打楽器・フジオカ ヒロミ・・

広島大学教育学部音楽科卒業。第7回KOBEL国際学生音楽コンクール打楽器B部門にて優秀賞を受賞し、ガラ・コンサートに出演、広島大学より学生表彰を受ける。打楽器を金本壮康、佐藤須美子、白石幸弘の各氏に、ドラムを井隈真治氏に師事。アンサンブルアッカのメンバー。西日本打楽器協会会員。現在、広島県内を中心に打楽器の演奏、指導を行っている。



## 山下 やよい・・打楽器・ヤマシタ ヤヨイ・・

ジャズドラマー猪俣猛氏、クラリネット奏者小倉清澄氏など、数多くの幅広い演奏家と共演。打楽器グループ「HeartBeats」代表。95'・97'・99'・00'・03'・07'・10'にてリサイタル開催。打楽器・マリンバを松嶋秀男、佐藤正二郎、佐藤須美子、吉岡孝悦各氏に師事。現在、広島文化学園短期大学及び同大学非常勤講師、西日本打楽器協会中四国支部事務局長。



# CROSS ROAD CO., LTD.

◆ sound office ◆

番組企画制作 ラジオ・テレビのCM・番組の制作 PA・レコーディングのプランニング・オペレート  
音声収録車の運用 CM・イメージソング制作 レコーディング・CD制作 イベントの企画制作

音に関することなら 何でもおまかせください

## 株式会社サウンドオフィスクロスロード

〒730-0017 広島市中区鉄砲町1-24森川ビル402

TEL(082)222-3920/FAX(082)222-3919

MAIL:info@so-crossroad.co.jp

## 広島オペラアンサンブル

..... 第36回公演 .....

2012年1月14日(土) 15日(日)

アステールプラザ 大ホール

オペラ曲目 / 花言葉

作曲 / レンツォ・ロッセリーニ

演出 / 今井伸昭 指揮 / 斎城英樹

第9回

## さくら会

歌は世につれ 世は歌につれ

～ラジオとともに～

企画：藤田 真弓 司会：田中 穂蕃

梅川 美和 (Sop) 佐々木 千穂 (Sop) 長岡 恵子 (Sop) 高見 昌男 (Bar)

松本 寛美 (Pf) 溝辺 恭子 (Pf) 矢野 文乙 (Pf) 大田 響子 (Vn)

平成23年11月23日(水) 開場 / 13:30 開演 / 14:00

入場料 / 2,500円 会場 / 広島県民文化センター

## 渡部総合法律事務所

弁護士 渡部 邦昭

弁護士 前田 知彦

弁護士 村田 正樹

〒730-0012 広島市中区上八丁堀8番14号 安芸リーガルビル4F

TEL:(082)211-3300(代) FAX:(082)211-3301

E-mail:watakuni@ruby.ocn.ne.jp

# 歌詞GET!!<sup>TM</sup>

<http://www.kget.jp>

## (株)ヤマハミュージック中四国 ヤマハ広島店



〒730-8628 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL 082-244-3760  
URL: <http://www.yamaha-chushikoku.jp/> 営業時間/AM.10:30~PM.7:00 定休日/第1・3水曜日

- ピアノ・エレクトーン 244-3760
- クラピノーバ 244-3760
- 管・弦・打楽器 244-3780
- ヤマハプレピラス紙屋町 (大人の音楽教室) 244-3782
- 楽 譜 244-3781
- CD・プレイガイド 244-3779
- L M 楽器・ギター 244-3778
- ドラム・シンセサイザー 244-3778
- 事 務 所 244-3686
- ピ ア ノ 調 律 244-3772

音のヤマハの防音室  
**アビテックス**

詳しい製品情報は、  
ホームページを  
ご覧ください。  
[www.avitecs.com](http://www.avitecs.com)



## 携帯端末で手軽に情報検索! Hiroshima P2 Walker



広島平和  
記念公園を  
訪れる  
皆さまへ

2年目突入で情報ますます充実!  
「広島P2ウォーカー」

ケータイ パソコン スマートフォン 平和と観光の情報ガイド

広島平和記念公園とその周辺地域を訪れる、国内外の方々が、携帯電話、携帯パソコン等を通じて、  
その場で、平和や観光に関する情報を入手できるサービス「広島P2ウォーカー」。  
記念碑や爆心地の様子などをより深く理解することができます。  
また、広島の観光スポットやイベントなどを映像で紹介。  
周辺エリアの飲食店・ホテル・宿泊施設のガイド等々、便利で多彩な情報が満載。  
「広島P2ウォーカー」を見ながら、もっと深く楽しく「広島」を歩いてください。

エリアワンセグ放送中!  
平和記念公園内(広島市中区)  
○ワンセグ携帯端末から 44ch

情報料無料  
通信料は別途必要です。  
広島P2ウォーカー  
<http://p2walker.jp/>

